

# 国内特許出願 vs. EP特許出願 出願戦略の比較



2017年11月

## 目次

- EP特許の長所と短所
- 欧州における特許保護に関する一般論
- 以下の国における国内特許の長所と短所:
  - ドイツ
  - フランス
  - 英国
  - イタリア
  - スペイン
- まとめ

## EP特許の長所と短所

## EP特許

### はじめに

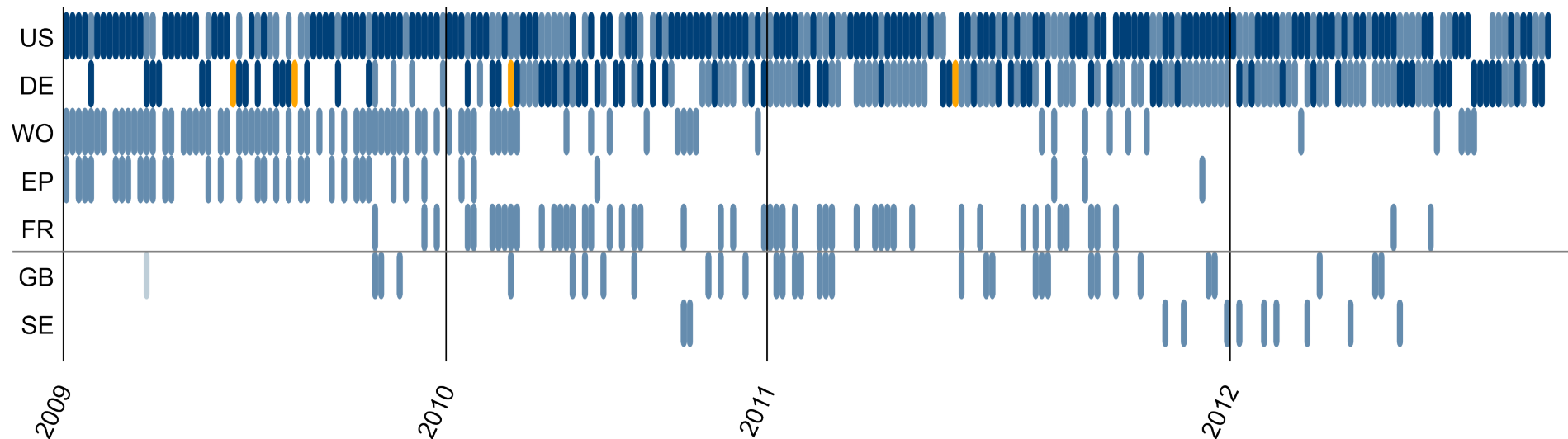
EPOの運営は約40年が経過し、その手続は出願人によく知られている。この10年間、多くの出願人が、EPOについて過度に形式主義であると認識している。

その出願戦略を変更した出願人がいる：EP諸国における特許保護が必要な場合、EPOの利用に代え、国内出願がより頻繁に利用されている。

次のスライドに、EPOの利用から国内出願（特に、ドイツ、フランス、英国（そして時にスウェーデン））へと出願戦略を変更した大企業の例を示す。

EP特許

## 過去数年になたって、出願戦略が変化してきた



第一国出願：特許は濃い青、実用新案はオレンジ

対応出願：薄い青

➡ 2010年に国内出願へ変化

## EP特許

### EPO手続の長所

詳細な審査ガイドラインがある、予見可能な手続き

英語による審査手続

異議申立期間が満了し又は異議申立手続が終了すると、個別に争われなければならない独立した国内移行分へと分かれる

## EP特許

### EPO手続の短所

調査料金及び審査料金が極めて高額

発明の単一性に関する厳格な要件

分割特許に高額な費用

審査手続上、方式上の問題に重きが置かれることが多い（別スライド参照）

審査手続が極めて長くなる場合がある（別スライド参照）

原開示に関する厳格なアプローチ（別スライド参照）

クレーム料金が高額（別スライド参照）

ロンドン協定外で特許を有効とする場合の翻訳費用

全てのEP加盟国について保護範囲が同一で、回避設計が容易